

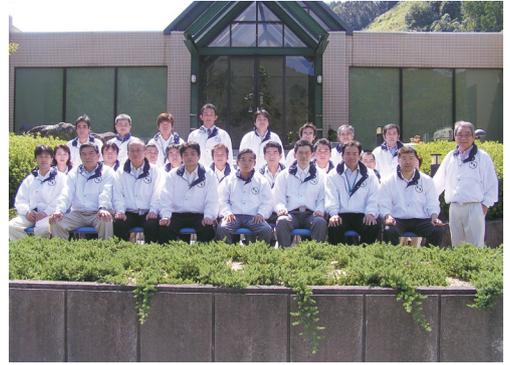
地域畜産振興部門

徳島県海部郡海陽町 オンダン農業協同組合

(代表：藤木 優)

地域と歩んだ銘柄地鶏生産量 No. 1 への道のり

—阿波尾鶏の生産振興による過疎地域の活性化—



オンダン農業協同組合のみなさん

オンダン農業協同組合は、ブロイラーの安定供給と生産農家の収入の確保を図ることを目的に昭和57年3月に設立（当時の名称はオンダン鶏鳥農業協同組合で昭和62年に現在の名称に改称）した。生産農家とは年間を通じて一定取引価格で契約するインテグレーション（契約飼養）制を導入するとともに同年11月には生産・処理を一元化し、鶏肉処理コストを低減し、収益性の向上を図るため食鳥処理場を整備し、本格的な養鶏専門農協となり地域養鶏産業振興の核となった。

さらに、鶏肉の付加価値を高めるため、昭和61年度に国の補助事業により近代的な鶏肉処理加工施設を設置し、高品質なブロイラーの生産から処理・加工まで一貫して行える組織となっている。その後も順次、施設等の整備・拡大を図りつつ、徳島県の最南端という地理的条件の不利な地域にありながら、養鶏を中心とした関連産業発展の取組みに先駆的役割を果たし、多くの雇用の場を提供する等、地域の発展に大きく貢献している。

さらに、消費者の「安全・安心」志向の高まりを受け、鶏肉及び加工製品の品質安全管理を徹底することが重要であるとし、平成13年6月に、HACCP及びISOの認証を取得し、社会的信頼の得られる農協組織となった。加えて、地域と共存する養鶏の発展には、鶏ふんの適正

処理が必要であることを早くから認識し、良質堆肥生産と販売を行うため昭和63年6月に組合員が農事組合法人ナンチクを設立し、円滑な運営に努力してきたが、平成16年3月にオンダン農業協同組合として資源循環型堆肥施設の整備を行い、農事組合法人ナンチクの堆肥生産販売部門を併合し、効率的な施設運営と良質堆肥の生産販売に尽力している。

オンダン農業協同組合では、輸入鶏肉の増加や産地間競争が激化する中で、養鶏農家の収益性を高め、全国屈指のブロイラー産業を更に発展させるためには、本県独自の地鶏のブランド化が急務であるとの考えから、平成元年に徳島県畜産試験場（現畜産研究所）で作出された阿波尾鶏の銘柄化を関係機関と一体となって推進した。自らも構成員となっている阿波尾鶏ブランド確立対策協議会で作成した阿波尾鶏の飼養マニュアルを生産農家に浸透させ、阿波尾鶏の安定生産や生産性の向上に貢献している。これらのことにより、阿波尾鶏は全国の数ある銘柄地鶏の中でも、出荷羽数で全国第1位のトップブランドに成長した。また、阿波尾鶏の信頼を確保するため、平成13年3月に全国の地鶏に先駆けて「地鶏肉JAS規格」の認定を取得し、養鶏産業のみならず、県のトップブランドとして、本県農林水産業の活性化に大きく寄与している。

活動のすがた



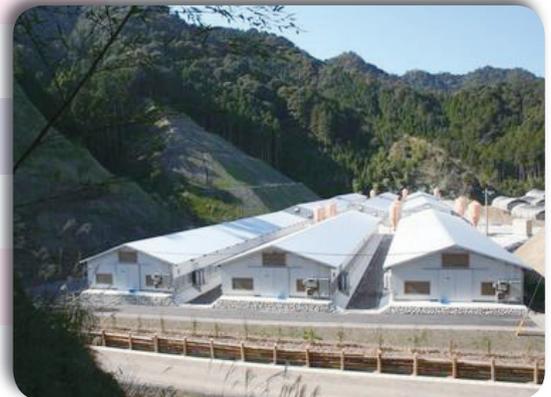
▲オンダン農業協同組合の外観
昭和 57 年 3 月に設立した養鶏専門農協



▲モデル鶏舎での防疫対策
農場に立ち入る車輛は消毒を徹底



▲阿波尾鶏（成鶏）
平成 10 年に生産羽数が全国一となる



▲阿波尾鶏の生産農場
自然環境に恵まれた立地環境



▲阿波尾鶏の生産農場内部
飼料のトウモロコシや大豆粕は PHF および
NON-GMO を使用



▲（株）マルモトのアンテナショップ
阿波尾鶏の販売はマルモトと提携する